

学校に言われたこともあった。迷惑のかけっぱなしなのに、先

「誰かくぎを打ちませんか」。青空の下で縁台作りに取りかかっていた学生たちが、周囲に声を掛けられた。傍らで見ていた主婦らが「やってみようかな」と、工具を手に加わる。仙台市太白区の「あすと長町仮設住宅」で10月9、10日、仮設住宅を使いやすく改造するイベントが開かれた。

「仮設カスタマイズ 小さい秋祭り」と題したイベントを開いたのは、東北工業大学(仙台市)の学生でつくる「仮設カスタマイズお助け隊」の約20人。初日は、外に収納棚を増設するなど工夫した仮設住宅を見て回る。



No. 1535

教育ルネサンス 学校と震災 38

学生の手で 仮設を改造

きつかけは、工学部建築学科の新井信幸講師(39)が5月ここに訪れた際、入居者から「収納スペースが狭い」と毎週のように訪れ、収納やベ

学科の岩佐明彦准教授(41)と学生4人も応援に訪れ、写真で事例を紹介した。カフェコナーも設けられ、和気あ

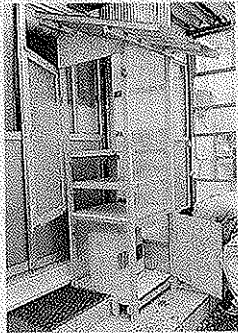
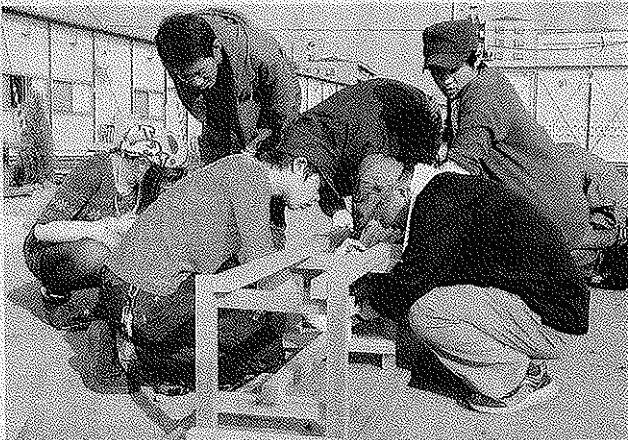
ンチを作るなど住環境の改善を支援してきた。あいとした雰囲気にも含まれた。

住民参加の促進も兼ねて企画された秋祭りには、ウェブサイト「仮設のトリセツ」で仮設住宅の改造例を紹介している新潟大学工学部建設(23)は、「私たちが作った物

を参考に、住民の間でカスタマイズが活発になり、それがコミュニティ作りにもつながれば」と話していた。

収納や縁台などカスタマイズの設計図は、学生が作製している。新井講師は、使う人に喜んでもらえるデザイン性を加えるよう求めている。10月に新井研究室に入ったばかりの3年竹下一馬さん(21)は、「建築設計の授業で学んだことを生かし、仮設住宅で暮らす人のためになる家を考えたい」と意気込む。

学生たちは、設計・施工が終わるたびに、改善点などをレポートにまとめる。「図面を書いて終わり、ではなく、実際に作り、どう使われているかを見て反省する。そのサイクルで技術を伸ばしてほしい」と、新井講師は期待している。



①仮設住宅で住民と一緒に縁台を10日、仙台市太白区で②1Kタイプの仮設住宅の軒先に学生が作った収納

(八木陽介、写真も)